

会長・井上謙一より

介護保険制度の創設から15年目を迎え、今後更なる増加が見込まれる高齢者の地域における暮らしを支えるためには介護サービスの充実とともに、団塊の世代が全て75歳以上となり、医療ニーズを併せ持つ要介護者の増大が見込まれる2025年に向けて、医療、介護、予防、住まい、生活支援が包括的に確保される「地域包括ケアシステム」を構築していくことが喫緊の課題である。これが社会保障審議会介護保険給付費分科会での平成27年度介護報酬改定に係る基本的な考え方のトップに掲げられた基本認識です。

要するに10年後に向かっての途中経過としての介護報酬提示であること、特に3年後に控えた医療と介護の同時改定ではさらに適正化の名のもとに報酬が抑えられるのは予測できます。しかしそのことで経営、運営が困難になり介護保険制度そのものが崩壊する事態になるのでしょうか。結論から言いますとそうはならない、そうしてはならないということです。私たち地域密着型サービス事業者は、利用者はもとよりその家族、地域住民と共に地域で生き生きすることを覚悟し今まで以上に努力しなければならないと思います。

おおむね次の2点が27年度の介護報酬改定の基本的な考え方ですから、それに向けて何をすべきかが見えてくると思います。

①中重度の要介護者や認知症高齢者への対応の更なる強化

- ・中重度の要介護者や認知症高齢者が住み慣れた地域で自分らしい生活を続けられるよう支援する事業者になる。
- ・医療・看護ニーズに対応した定期巡回・随時対応型訪問介護看護、小規模多機能居宅介護、看護小規模多機能居宅介護等の包括報酬サービスの事業へ参加する。

②介護人材確保対策の推進

- ・将来的なマンパワー減少を見据え介護人材を効果的かつ効率的に配置する。
- ・事業所自ら雇用管理の改善に取り組むとともに国や県、市町村の支援制度を積極的に取り込む。
- ・連協として限られた人材を発掘・確保し情報を共有する。

これからも仲間として連携・協力していきましょう。



Gumma CMS “地域”で生き生き！

群馬県地域密着型サービス 連絡協議会・会報

第26号・・・平成27年3月発行

あんじゃー
ない！



次の大会は夏。小規模多機能・グループホーム大会

もっと聞きたい！の声に応え2日間の開催に決定。
事例発表して、職員もホームもレベルアップ！

事例発表者と
事業所からのコメント



- ・発表の準備は大変だったが、効率的に時間を使えるようになった。
- ・発表し、コメントを貰い、表彰されることで、自分に自信が付いた。
- ・目的を持つことで、介護という仕事へのモチベーションがアップした。
- ・今までとは違う視点で仕事を見つめ直す事が出来るいい機会になった。
- ・発表した職員もチームも、一回りも二回りも大きく成長した印象。
- ・参加させてもらって良かった。発表自体は未熟だが、どこかのホームの誰かの役に立つかもしれない…そんな思いでいます。

このように、発表するメリットはたくさんありますが・・・
そのためか発表する事業所が固定化しつつあります。

次はぜひ！ まだチャレンジしたことのない 事業所さんもお待ちしています！

参加者からの コメント

- ・他の場所でも同じ事があるんだとわかった。
- ・聞きたい事例が重なり残念。全部聞いてみたい。
- ・今までのやり方を考えさせられる良い機会だった。
- ・自分の事業所に持ち帰り、実践してみたい事がたくさんあった。
- ・実践や成果を発表する機会があるのは、とても良い事だと思った。



↑事業所の紹介や福祉用具の工夫などを紹介した展示コーナー



大会の様子は中面
にもあります …→

Gumma CMS

群馬県地域密着型サービス連絡協議会

事務局 〒371-0843 群馬県前橋市新前橋町 13-12
(群馬県社会福祉総合センター 7 階)

☎ 027-289-0908

Fax.027-289-0909

e-Mail renkyou@gunmaken-chiiki.net

ホームページ <http://www.gunmaken-chiiki.net>

地域で必要とされる存在になるために…

認知症相談窓口の
手引きを作成中です！

もう少し
お待ち下さい

グループホーム運営部

空室はありませんか？

連協ホームページの空き情報を
ぜひご利用下さい！

小規模多機能・グループホーム大会

平成26年10月13日
社会福祉総合センター

「ユマニチュードを学ぶ」という題目でご講演いただいた、東京都健康長寿医療センター研究所の伊藤美緒氏。アンケートでは、なんと96%の方が「とても良かった」と回答されました。2時間の講演にもかかわらず、時間が短い、もっと聞きたい、という声が続出！参考になる実例をあげたわかりやすい内容や、聞き手を飽きさせない話術が支持されました。

第14回定期総会

平成26年6月6日
玉村町文化センター会館

総会では事務局の移転や、それに伴う経費の関係等で来年度より会費を値上げさせていただく件などをご承認いただきました。
第三部は「地域連携の取り組みについて」をテーマに、東毛敬愛病院の顕原禎人院長先生のご講演。地域支援ネットワークを築き、活動されている取り組みをご紹介いただきました。

管理者等研修

平成26年12月2日～3日
伊香保温泉・ホテル天坊

第一部の講演は、医療法人大誠会の田中志子理事長。認知症疾患ごとの特徴や、環境が与える影響について、そして認知症の方や家族を支える仕組みや取り組みについて、大変わかりやすくご講義いただきました。
第二部は、株式会社ウエルビーの青木正人氏。来年度の介護報酬制度改定を控え、社会保障の仕組みや、予想される改革のポイント等を、2025年を見据えた展望も含めてお話しいただきました。

定期総会の日程が決まりました

平成27年5月20日（水）
群馬県社会福祉総合センター

ぜひ
ご参加を！

ウエルカム講習会を4会場で開催！

平成26年7月～9月
県内の4会場にて

昨年度好評だったウエルカム講習。連協としての介護人材の確保への取り組みのひとつです。潜在的有資格者等養成支援事業として今年度も群馬県から補助金を受けて開催できました。前橋、富岡、高崎、太田の4つの会場で計60名の「介護未経験者」の参加があり、社会人としてのマナーを始め、認知症についての理解を深めるための講義、介護技術や普通救急救命の実技、現場実習…と充実した内容で、皆さん熱心に受講されていました。



…小規模多機能・事例検討会を通して感じた事…

毎月第三水曜日に開催中

ふと気づくと介護歴10年が過ぎ、「この方の介護はこうしたほうがいい」とついつい経験値の中から決めつけてしまう事が多くなっている自分がいた。しかし、戦争体験のある今の爺さん達と、経済戦争という社会で戦ってきた団塊の世代の男達とが、同じ価値観を持っているとは考えられない。我々介護する側が一生懸命想像するより、される側の本音を聞いてみたい。介護保険が出来、将来自分たちも利用する制度のサービスなので「受ける側からのより良いサービスを」を目標にして小規模多機能型居宅介護という事業を始めた。しかし最近、受ける側の準備ができていない事を痛感する出来事があり、今後団塊の世代の方々がどんな介護や支援を望むのか？そして望みを叶えるために、する側とされる側の折り合いをどう付けるか？…小規模多機能型居宅介護の在り方を再度検証し、実行していく事が必要だと考えるようになった。

小規模多機能 運営部 部長 櫻場一典

全国グループホーム連合会・全国フォーラムが開催されました

「被災地からの未来へのメッセージ」では当協会の井上会長が座長に。「地域密着としての未来へのメッセージ」では恩田副会長が登壇し、群馬県の取り組みを全国へ発信しました。シンポジウムでは、和田行男氏さんや大谷るみ子さん、厚労省の水谷忠由氏らを迎え、グループホームは何处へ向かっていくべきか、熱い議論がなされました。当協会の会員事業所からも23名が参加されました。

H26.10.1 東京五反田・スタンダード会議室